

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol9, No1 をお届けいたします。

本号では、2014 年度年次研究発表大会のテーマに沿った招待論文 2 本と、原著論文 1 本、研究ノート 1 本を掲載いたします。いずれも、独自性、新規性があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

招待論文「政治的多元主義と熟議：概念と思想」は、共和主義の考え方での熟議概念の定義と現在の日本の政治状況のなかに、熟議の概念を位置付ける試みとして、社会思想の背景に遡って熟議の概念を検討した論文です。さらに、議会制代表民主主義の成立に関わる議員選挙と政策決定過程が、個々の政治家に異なる行動パターンや性格付けを要求することを出発点にして、熟議概念の思想的背景を検討して、政治状況における近代社会の創発性とガバナンスの問題としてまとめており今後の研究の進展が情報社会学の発展に寄与すると考えます。

招待論文「ネット選挙解禁は目的を達したか—プル型メディアとしてのネットとクラスタの顕在化—」は、ネットワークをプル型メディアと捉えてネット選挙に関する先行研究のレビューを踏まえた上で、「プル型メディア」による「クラスタ化」に焦点を当て、実際の事例を紹介し今後のネット選挙のありかたについて述べた論文です。日本における事例も取り上げた実証的な側面もあり情報社会学の視点からまとめられている意欲的な論文です。

原著論文「ソーシャルメディア上の政治家と市民のコミュニケーションは集団分極化を招くのか—Twitter を利用する国会議員のコミュニケーションパターンを事例に—」は、選挙におけるインターネットとくに Twitter でのコミュニケーションについて定量的にわかりやすく分析し、伝搬力と双方性に着目し結論付けています。とても興味深く、有用な結論です。今回は匿名性が高い Twitter で検証していますが、実名で利用することが多い Facebook でも同じ結果となるのか、また選挙運動で有用に活用できるか今後の研究に期待をします。

研究ノート「米国アニメ市場における日本企業の競争戦略再考」は、日本製アニメの競争戦略についてアメリカのアニメ市場と競争相手を定義し、市場における競争上のポジションを明確にし、競争の優位性を考察した研究です。今後の更なる研究に期待をします。

今後も会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2014 年 5 月 24 日

情報社会学会
会長・編集委員長
大橋 正和